

「危険な場所」とは「犯罪が起りやすい場所」。
キーワードは不審者が「見えにくい」「入りやすい」!



子どもたち自身がまちの「危険な場所」を調査する「地域安全マップづくり」。そこには、地域の子どもの安全と健やかな成長を心から願い、マップづくりを支える「地域防犯サポーター」の姿がありました。今回は、その様子をシニア広報記者が取材しました。

子どもの視点で危険を探す

地域安全マップとは

皆さんは「地域安全マップづくり」をご存じですか？ 子どもたちの防犯意識と危険を回避する力の向上を目的としたこの取り組みは、さまざまな地域で行われています。今年、北区では屯田北小、光陽小、新光小、白楊小で実施されました。

ポイントは「子どもたち自身で考えること」です。実際に地域を歩き、不審者

一緒にまちを調査

この一連の作業を小学生と共にやったのが、この取り組みに賛同し、子どもた

が隠れられそうな「危険な場所」を調査。近隣の住民から話を聞くなどしながら情報収集し、調査を終えるとその情報を基にマップを作製します。住宅地図を描いた模造紙に情報を書き込んで完成です。



見えにくい場所
ケン



サポーターは現地調査に同行します。子どもたちの考えを尊重しながら「ここは写真を撮っておいた方がいいよ」などと、さりげなくアドバイス。地域をよく知るサポーターの助言を受けながら、子どもたちも積極的に意見を出し合って調査を行っていました。



意見をまとめながら協力して調査をします

地域安全マップづくりの手順



①地域防犯サポーターが集まって打ち合わせ



②子どもたちと一緒に、実際にまちへ出て調査



③調査で得た情報を基にマップを作製



④完成したマップと作業の感想を発表